

和の光

宝塚市立西谷中学校



夏休みの課題「人権作文」より ～アジア人差別に立ち向かう私たちの使命～

3年生 女子

私は好きなK-POPアイドルがいます。そのK-POPアイドルが言葉の差別を受けていることを知ったとき、私はとても悲しくそして怒りを感じました。彼らが表現者として、音楽を通じて世界の人々に喜びや感動を与えているのに、なぜ差別的な扱いを受けるのかこの出来事をきっかけに、私はアジア人差別問題について深く考えることにしました。

インターネット上にはK-POPアイドルに対して容姿や、国籍を侮辱するようなコメントを多く見ます。また、K-POPアイドル以外でも海外でのアジア人に対する暴行事件も起きています。これらの事件は、単なる誹謗中傷ではなく、人としてあってはならない行為です。

差別は、人の容姿、国籍、文化など人々の多様性を否定する行為です。その差別を受けた人は心に傷を負い、その傷は一生消えません。ですが、差別をした側は差別をすることに対して、悪いことをしているという意識がないままに差別を繰り返すので、さらに心に傷を負う人が増えてしまいます。また、差別が蔓延する社会では、異なる文化や価値観を持つ人々が共存しにくくなり、社会の多様性や創造性が損なわれます。

アジア人差別は、歴史的背景と深く結びついています。過去にアジア諸国は、西洋諸国から植民地支配を受けたりしてきました。その歴史的な負の遺産が現代においても根強く残っているのが、アジア人差別が起こっている要因だと思います。

アジア人差別を無くすためにはどうしたらよいのか自分なりに考えました。最初に自分自身が差別をしないように心掛けることが大切だと思います。相手の立場に立って物事を考え、偏見や固定観念にとらわれることなく努めることが差別を無くす一歩になるのではないかと思います。「私たちはみんな同じ人間だ」という当たり前のことをもっと自覚するべきです。国籍や人権、文化の違いはあっても私たちは皆、尊重し合い、助け合い、共に生きていく存在です。また、差別的な言動を見た時には、無視するのではなくて、勇気を持って声をあげることも大切だと思います。

次に、学校や地域社会においても、多文化教育を推進し、多様な人々との交流を促進することが求められているので、交流の中で差別の意識を少しでも無くしていくのがいいかと考えました。

最後に、メディアは情報を発信する力を持っており、その影響力は非常に大きいと思います。よって、客観的な報道を行うとともに、差別を助長するような表現がある報道は避けるべきだと思いますし、メディアから発信される情報を鵜呑みにするのではなく、自分自身で情報の取捨選択をしていかなければいけないのではないかと思います。

K-POPアイドルの活躍は、世界中の人々に感動を与え、文化の壁を越えた交流を促してきました。彼らが受けている差別は、決して彼らのせいではありません。K-POPアイドルを応援する人たちは、彼らを心から応援し、彼らの表現の自由を尊重しなければなりません。

そして、私たち一人ひとりが、差別のない社会の実現に向けて、できることを少しずつ実践していくことが大切です。それは、小さな一歩かも知れないですが、多くの人の心が一つになれば、大きな力になります。

私は、差別のない社会を実現するために、これからも学び続け、行動し続けたいと思います。そして、この問題について多くの人と共に考え、話し合い、より良い未来を築きたいと思います。

夏休みの課題「人権作文」より ～戦争や平和について～

1年生 女子

昔から今までずっと争いは絶えません。私はずっと、「皆平和が一番良いと言っているのに、なぜ戦争を止めないのだろう？」と疑問に思っています。争いを止めないと、罪のない市民や生まれたばかりの赤ちゃんの尊い命が奪われ続け、幸せなことなんて何一つもないです。それに今もなお争っている国も、争いに勝つためにより良い兵器を得るために、多くのお金を費やしてもいます。日本が第二次世界大戦で費やしたお金は約7,600億円と言われていて、アメリカは約3,000億ドルとどちらもすごい金額を戦争に費やしています。

そして、お金だけではなく、国の人々も戦争のために働かせられたり、軍隊として戦場に行かされたりしました。戦争中の日本では、14、5歳以上の未成年男子には、海軍少年兵や海軍練習兵の募集が行われ、25歳未満の女子は、女子勤労挺身隊に入れられ、工場で働かされました。私は、このことを知って、「友達とたくさん遊んで、おいしいご飯もたくさん食べられた生活が、戦争によって全部壊されるなんて…」と、とてもショックを受けました。同時にその時代に生きてただけで戦場に行かされ、働かされ、大切な命を奪われた人たちの事を思い胸が苦しくなりました。

さらに、政府は鉄・石油・木綿・羊毛・木材などの物資を、軍備に優先して使ったので、人々の暮らしに必要な物資はどんどん不足していきました。鉄や木材などでできている生活用品も軍のために回収されていたので、陶器製のアイロンや竹製のランドセルも当時はあったそうです。「そういえば小学生の時、社会の授業で習ったな～」と調べていたら思い出しました。他にも、戦争中はコーヒー不足だったらしく、どうしてもコーヒーが飲みたい人は灰汁を抜いたどんぐりを焙煎して抽出した「どんぐりコーヒー」や、たんぼぼの根を焙煎して抽出した「たんぼぼコーヒー」など、コーヒーの味に似せた、代用品を作って飲んでいました。

このように、罪のない人々が命を奪われ、お金も物も全て失ってしまうので、戦争は絶対にダメだと改めて思いました。それと、「もう二度と戦争はしない」と言った日本はとても素晴らしいと思えました。今でも戦争が続いている国や争おうとしている国も、一日も早く戦いが終わって欲しいなと願っています。

■トライやるウィークが始まりました



トライやるウィークへの決意発表式

2年生が9月9日（月）から5日間、宝塚市内の事業所で職業体験をしています。普段の学校生活ではできない様々な体験を積むことで、将来の夢や目標の発見に繋がることを願っています。本校の生徒を受け入れていただく事業所の皆様には心から感謝申し上げます。活動の様子は、改めて報告させていただきます。

■書道パフォーマンスの取組みが進んでいます。（1年生の様子）

文化発表会で披露する書道パフォーマンスの取組みが進んでいます。各学年で考えた書道パフォーマンスの案について、書家の鈴木曉昇氏からアドバイスをいただき、それに基づいて足立有里さん（満福寺）から指導を受けました。地域の方や専門の書家の先生からアドバイスや指導を受けることができ、生徒はとても喜んでます。文化発表会当日に、最高のパフォーマンスが披露できるようにクラスの皆で力を合わせていきましょう。



講師の足立有里さん



みんな真剣に説明を聞きます



各自で書いてみました（1年生）

※紙面の都合、2・3年生の取組みの様子は次号で紹介させていただきます。